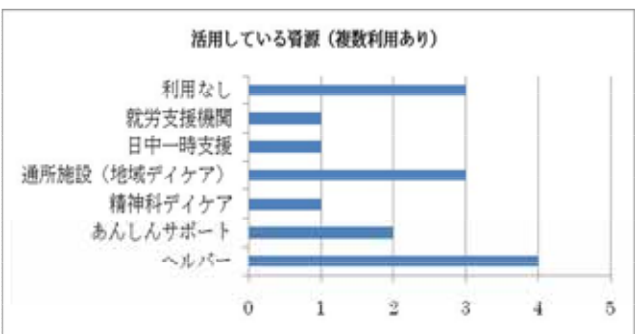
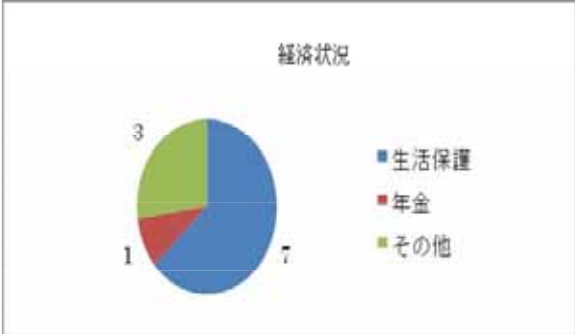
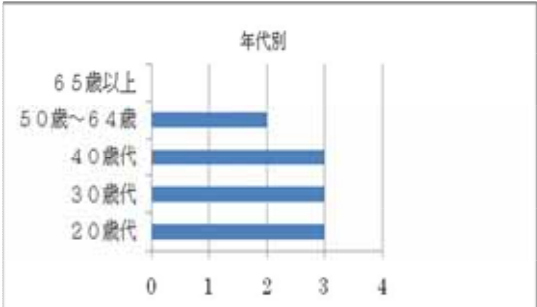
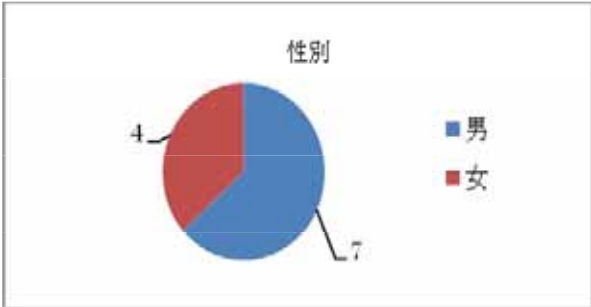


さいたま市障害者居住支援モデル事業 中間報告（案）

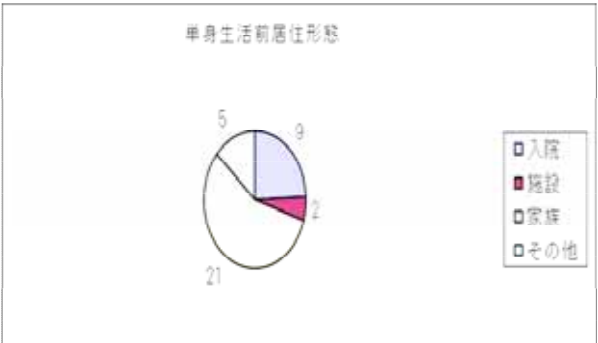
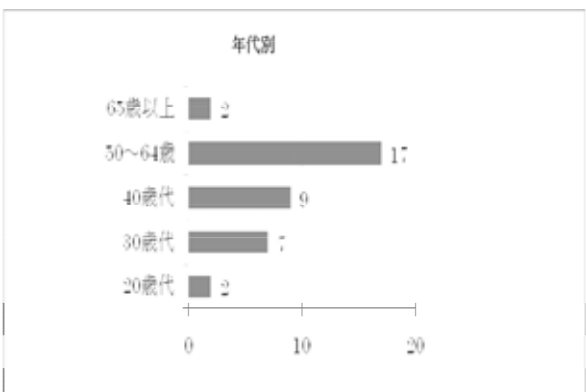
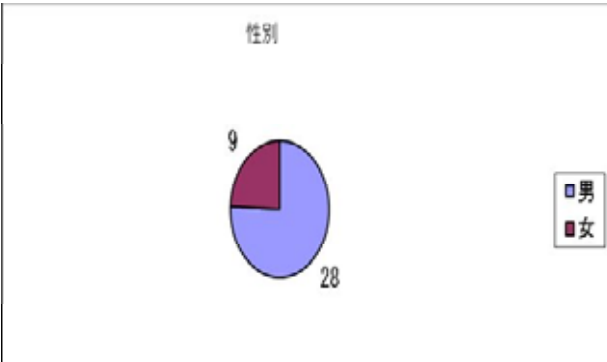
1．居住支援対象者の概要

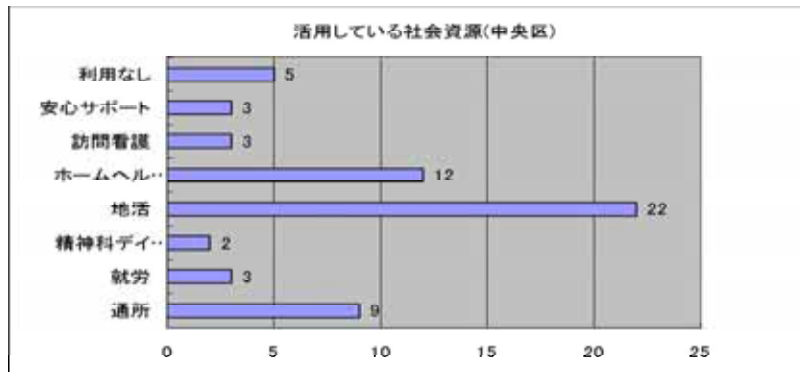
1) 対象者の概要

【浦和区】入居支援；2人 入居継続支援；9人

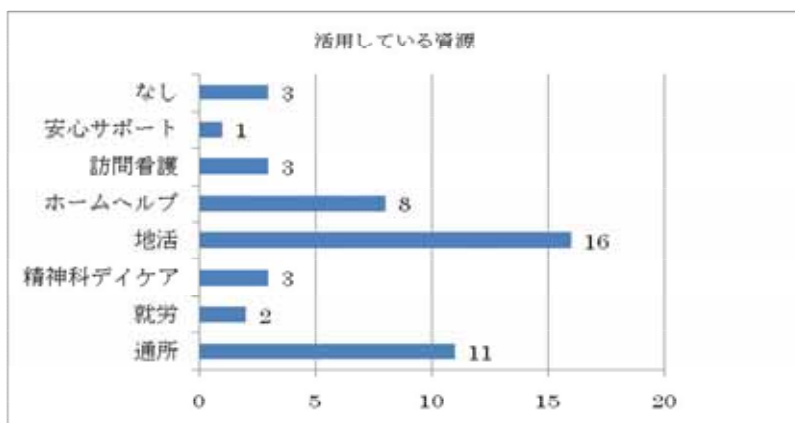
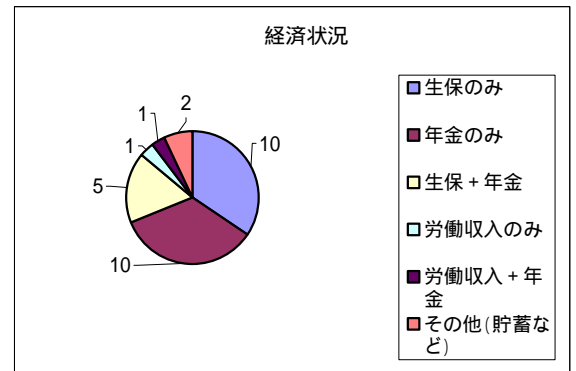
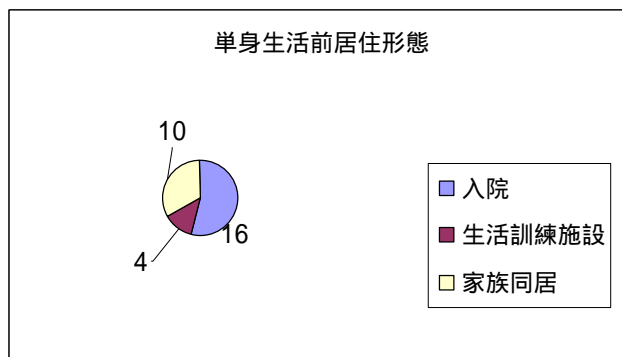
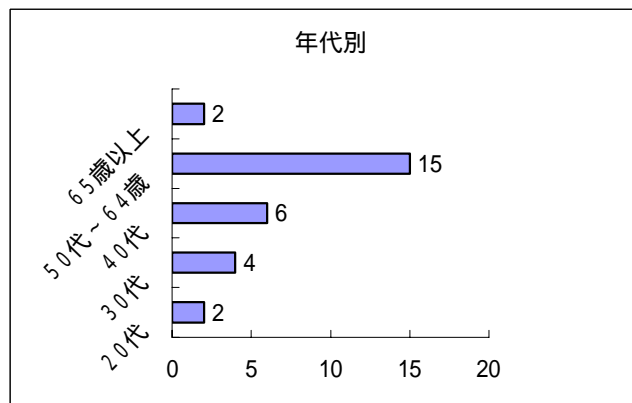
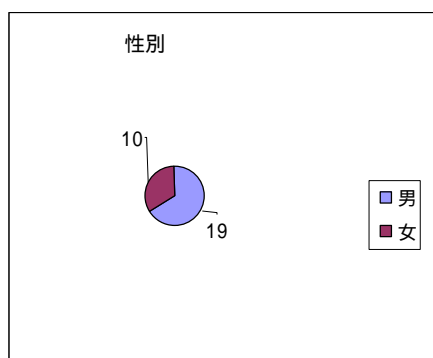


【中央区】入居支援；1人 入居継続支援；36人





【見沼区】入居支援；1人 入居継続支援；28人



2) 単身生活のきっかけ

- ・ 支援開始時に単身生活だった人 .
- ・ 徐々に障害が悪化してより支援の必要性が増した場合 .
- ・ 両親が亡くなった後に単身生活 .
- ・ 介護が必要な障害のある人がいる , 家族の介護負担が増した場合 .
- ・ 両親が施設へ入居したなど世帯状況に変化があった場合 .
- ・ 両親との関係が良くないため単身生活へ .
- ・ 家族からの虐待により単身生活 .
- ・ 本人が家族から独立しての単身生活を希望 .
- ・ 服役後ホームレス状態から単身生活へ .
- ・ 公判後 , 釈放されることを前提に単身生活への移行が必要な場合 .
- ・ 精神科病院からの退院後 , 生活訓練施設を利用した後に単身生活 .
- ・ 震災の影響で居住地をさいたま市に移した人 .

3) 生活安定のため活用している福祉サービス

- ・ ホームヘルプサービスによる家事支援
- ・ あんしんサポートによる金銭管理の支援や各種手続きの支援
- ・ 食事づくりが困難な人や健康管理を目的にした宅配弁当
- ・ 授産施設・作業所・地域活動支援センター・病院 DC・OT など
- ・ 地域デイケア施設・日中一時支援事業・精神科デイケアの利用
- ・ 訪問看護による定期的な服薬管理と病状把握
- ・ サービス利用に至らない人への支援

4) 障害者生活支援センターによる支援

【入居支援】

- ・ 物件探し , 契約時の同行支援 , 入居手続きなどの支援
- ・ 単身生活に向けた生活技術面での準備と家族間の意向調整 .

【入居継続支援】

- ・ 不安や不満 , 人間関係でのトラブルなどの電話や面接による相談支援 .
- ・ 病状の進行や病状の不安定さに応じた見守り , 訪問等の支援 , 同行支援 .
- ・ 福祉サービス利用の調整 (非定型ケースへの対応) .
- ・ 就労希望のためハローワーク , 総合支援センターでの相談を継続
- ・ 浪費や宗教勧誘被害などの回避のため定期的な訪問 .
- ・ 既存のサービスに馴染まない人への支援 .
- ・ 体調変化の自覚や SOS が出しにくい人への定期訪問
- ・ 健康課題 (生活習慣病など) のある人への定期訪問や医療機関への同行支援
- ・ 病状不安定時の精神科病院への同行支援
- ・ 不眠や不安時の夜間緊急電話の相談対応

2．入居支援，入居継続支援の内容と課題

1) 入居支援の内容と課題

【事例 A】家族からの独立を望んで，単身生活への準備を進めた人

概要；40 歳代 身体障害・知的障害

両親と同居．現在は作業所に通所利用中．母親に対して依存的な傾向が強く，母親も対応に苦慮していた．A さんも単身生活の希望を持った．

きっかけ；A さんと母親との話し合いで，家族からの独立を目指し，親に頼らない生活を念頭に生活技術の獲得や入居資金の貯蓄，金銭管理などを進めてきた．

入居支援の内容；食事の準備と貯蓄など家庭内で行えることを行った．定期的に不動産店に赴き物件の相談を進め，入居費用を貯蓄した．自分の生活しやすい地域に賃貸物件を見つけ申込みまで済ませたが，直後に入院する事態になり，本人が自信を失くしたことで，単身生活に不安感をもった両親との意見が一致し，しばらく単身生活への移行は見送ることになった．

【事例 B】自立生活を目指しているが世帯全体に支援が必要

概要；30 歳代 知的障害（療育手帳 B）

区内の工場で就労中．父と弟と暮らしている．父は病気がち，弟は単発のアルバイトを時々している程度．そのため，B さんの所得が家族全体の生活を支えている状態．

きっかけ；B さんは交際相手（知的障害あり）との結婚を希望しており，アパート探しについて相談がある．

支援内容；B さんの支援（引越しに関わる資金の確保，職場との連携，生活全体の組み立て方など）をすすめている．しかし，B さんの支援だけではなく，父と弟の生活をどう保障するかも重要であり，自宅への訪問を提案しているが拒否をされている状態である．今後，福祉課や高齢分野との連携が必要である．

【事例 C】体験型住居を活用し準備期間を経て単身生活を実現

概要；40 歳代 精神障害（精神手帳 2 級）

両親と同居しながら，長年作業所で働いていた．両親との関係は良好だが，両親とも年齢を重ねてきており，いつかは単身生活をしなくてはという思いを抱きながらも踏み切れずにいた．

きっかけ；同年代の仲間が単身生活を開始したことに影響を受け，気持ちが前向きに動く．1 人暮らしの体験を目的にチャレンジハウス（1 人暮らし体験型住居）の利用を開始した．

入居支援の内容；1 週間に 1 日ずつ体験宿泊しながら，徐々に宿泊の日数を増やしていった．利用から 4 ヶ月経過した頃，疲れが蓄積して周囲への被害感が強まり，睡眠もとれなくなったため，1 ヶ月間利用を休止する．この体験から食事や掃除，手続き時の支援など，日常生活を営む上での支援の必要性を認識．働きやすい環境を考慮し，作業所近くに物件を確保．単身生活に踏みきることができた．

【課題】

- ・世帯の変化を見越した継続的な相談支援が必要．
- ・関係機関との連携を伴って単身生活に向けた支援．
- ・十分な準備期間を経て単身生活を可能とする体験型住居

2) 入居継続支援の内容と課題

【事例 A】親の死亡により、単身生活を余儀なくされた人

概要；30 代 知的障害

要介護状態の親との二人暮らし．介護保険担当とともに支援を行っていた．
きっかけ；親が急逝したため、本人の単身生活の可能性を検討した結果、一人暮らしの実現に至った．

入居継続の内容；浪費や宗教の勧誘などの被害の心配があるため、定期的な訪問による見守り、不安解消のため書類の確認、社会参加への案内や同行など、支援課、福祉課、社協あんしんサポート、ヘルパー事業所と連携して支援を継続．

【事例 B】単身生活への緊急時の支援体制が必要

概要；40 歳代 知的障害（療育手帳 B）

単身生活 7 年目、市外の工場で就労中．
きっかけ；父の死去後、別居をしていた兄夫婦と同居を始めるが、兄夫婦から経済的、身体的な虐待を受けていることがわかり、支援課と生活支援センターが支援を開始．アパートでの単身生活を始める．
支援の内容；保佐人(金銭管理)、ヘルパー（家事援助など）を利用し、生活していた．
2011 年 3 月におきた東日本大震災発生後、職場から自宅待機を命じられる．そのことで生活の見通しが持ちにくくなる．3 月下旬、夜間に体調不良を訴える電話があり、緊急で訪問．受診したところ、ストレス性の内科疾患を発症していたことがわかり、そのまま入院となる．

退院後自宅へ戻るが、夜間 1 人であることへの強い不安などから、意欲と A D L が著しく低下．主治医から、24 時間の支援体制がある施設でのショートステイで体力回復をするよう指示を受けるが、市内では長期で受け入れ可能な社会資源がないため、市外の入所施設を転々とする．そのことでさらに不安が強くなり、意欲などが更に低下、一時は食事も十分に取れない状態となる．そのため、施設側からは『ショートステイはあくまで場貸しであるため、これ以上の受入は難しい』と、利用を断られる事態となる．

現在は、市内の生活ホームでのショートステイを利用中．住み慣れた地域と知っている支援者で支援体制を組むことができ、体調は安定してきており、今後の生活を支える体制を検討している．

【事例 C】安心できる居場所を得て生活が安定し始めた人

概要；20 代女性 精神障害（精神手帳 2 級・療育手帳 C）

幼い頃、両親が離婚し父親と暮らす．15 歳の頃、精神疾患を発症．父からの暴力で病状不安定となり精神科病院に入院．

きっかけ；退院後は父との同居は困難なため，単身生活を目指し生活訓練施設を利用（１年），その後単身生活となる．

入居継続の内容；地域活動支援センターとデイケアの利用を開始するが，他人の言動を被害的に受け取って感情が不安定になり，入退院を繰り返す生活が続く．医療機関，支援課と連携しながら，資源の活用方法や対人関係などで相談支援を継続．次第に，一人で過ごせない時や寂しさがある時は地域活動支援センターで過ごせようになり，居場所を得ることができる．日中活動への参加も始め，仲間と出会い，日常の楽しみを見出すようになっている．

現在は，作業所の利用を開始．少しずつではあるが，安心できる場を得て自分なりの生活ペースを獲得するとともに，集団活動の体験を重ねながら人との距離感や感情の処理の方法を身につけつつあり，単身生活を継続している．

【課題】

- ・緊急的に生活が激変しない環境でのショートステイの実施．
- ・医療機関との連携（精神科以外の疾患のケア，日常的な健康の管理など）
- ・通所施設の利用などで継続的に見守りができる体制が望まれるが，当事者の背景により，既存の資源やサービス利用には至らない場合がある．障害種別を問わず利用できる地域活動支援センター（ 型 ）などの資源の創出．

さいたま市障害者居住支援モデル事業 実績報告

(平成23年4月～平成23年6月)

(見沼)

見沼		入居支援		入居継続		24計
		4月	5月	6月	計	
入居支援		4月	5月	6月	計	24計
訪問	2 0 0	2	1	7	5	13
来所	0 0 0	0	13	14	27	54
同行	2 1 0	3	0	2	2	4
電話	4 4 0	8	38	3	37	14
メール	0 0 0	0	0	0	0	0
その他	1 0 0	1	0	0	0	0
計	9 5 0	14	52	3	60	14
経路内訳		入居支援		入居継続		24計
本人		4	51	3	58	14
家族		4	0	4	9	13
支援機関(地域支援者)		0	0	0	0	0
その他		1	1	0	0	1
計	9 5 0	14	52	3	62	14
支援内容		入居支援		入居継続		24計
賃貸物件に関する相談		3	1	0	0	1
賃貸物件のあっせん・紹介依頼		2	1	0	0	1
賃貸契約に関する手続き支援		0	10	0	2	12
賃貸契約・手続きに関する同行支援		0	0	0	0	0
不安解消・情緒安定		1	25	3	31	13
家族関係・人間関係		0	1	3	0	4
家計・経済		0	1	0	1	2
生活技術		2	10	5	10	25
隣人・地域支援者に関する相談支援		0	0	0	0	0
社会参加・余暇活動		2	4	6	3	13
権利擁護に関する支援(居住について)		0	2	2	0	4
その他		0	9	15	1	24
計	10 21 0	31	64	3	62	14

(中央)

中央		入居支援		入居継続		24計
		4月	5月	6月	計	
入居支援		4月	5月	6月	計	24計
訪問	0 0 0	0	22	11	12	45
来所	0 0 3	3	16	17	24	57
同行	0 0 0	0	9	1	21	31
電話	2 0 2	4	178	9	118	164
メール	0 0 0	0	0	0	0	0
その他	0 0 0	0	2	4	0	5
計	2 0 5	51	227	10	171	29
経路内訳		入居支援		入居継続		24計
本人		0	140	6	85	12
家族		0	0	1	0	3
支援機関(地域支援者)		2	5	0	3	0
その他		0	82	4	82	0
計	2 0 5	7	227	10	171	29
支援内容		入居支援		入居継続		24計
賃貸物件に関する相談		2	0	0	3	3
賃貸物件のあっせん・紹介依頼		0	0	0	0	0
賃貸契約に関する手続き支援		0	4	8	1	13
賃貸契約・手続きに関する同行支援		0	0	2	1	3
不安解消・情緒安定		0	65	4	11	27
家族関係・人間関係		0	0	0	0	0
家計・経済		0	0	0	1	1
生活技術		0	99	3	91	110
隣人・地域支援者に関する相談支援		0	0	0	0	0
社会参加・余暇活動		0	2	2	1	5
権利擁護に関する支援(居住について)		0	0	0	0	0
その他		0	57	3	57	11
計	2 23 5	30	227	10	171	29

(浦和)

浦和		入居支援		入居継続		24計
		4月	5月	6月	計	
入居支援		4月	5月	6月	計	24計
訪問	2 2 0	4	7	1	7	15
来所	0 0 0	0	8	2	4	14
同行	2 0 0	2	0	1	4	5
電話	11 21 18	50	50	43	94	187
メール	1 0 0	1	0	0	0	0
その他	0 0 0	0	0	0	0	0
計	16 23 18	57	65	47	109	221
経路内訳		入居支援		入居継続		24計
本人		11	28	17	34	79
家族		0	1	0	1	2
支援機関(地域支援者)		7	36	30	74	140
その他		0	0	0	0	0
計	18 23 18	59	65	47	109	221
支援内容		入居支援		入居継続		24計
賃貸物件に関する相談		1	0	0	0	0
賃貸物件のあっせん・紹介依頼		1	0	0	0	0
賃貸契約に関する手続き支援		0	0	0	0	0
賃貸契約・手続きに関する同行支援		0	0	0	0	0
不安解消・情緒安定		0	7	6	4	17
家族関係・人間関係		3	7	6	28	41
家計・経済		0	12	10	36	58
生活技術		3	12	9	36	57
隣人・地域支援者に関する相談支援		0	0	0	0	0
社会参加・余暇活動		0	19	16	22	57
権利擁護に関する支援(居住について)		4	8	0	2	10
その他		6	0	0	3	3
計	18 23 19	60	65	47	131	243

(3か所)

3か所		入居支援		入居継続		24計
		4月	5月	6月	計	
入居支援		4月	5月	6月	計	24計
訪問	2 0 4	6	13	45	15	73
来所	0 3 0	3	54	57	14	125
同行	3 0 2	5	4	94	5	103
電話	8 4 50	62	149	470	187	806
メール	0 0 1	1	0	0	0	0
その他	1 0 0	1	0	11	0	11
計	14 7 57	78	220	677	221	1118
経路内訳		入居支援		入居継続		24計
本人		6	208	399	79	686
家族		6	13	4	2	19
支援機関(地域支援者)		1	0	9	140	149
その他		1	1	265	0	266
計	14 7 59	80	222	677	221	1120
支援内容		入居支援		入居継続		24計
賃貸物件に関する相談		3	1	3	0	4
賃貸物件のあっせん・紹介依頼		2	1	0	0	1
賃貸契約に関する手続き支援		2	12	13	0	25
賃貸契約・手続きに関する同行支援		1	0	3	0	3
不安解消・情緒安定		6	122	108	17	247
家族関係・人間関係		2	4	0	41	45
家計・経済		0	2	1	58	61
生活技術		4	25	303	57	385
隣人・地域支援者に関する相談支援		1	0	0	0	0
社会参加・余暇活動		3	13	5	57	75
権利擁護に関する支援(居住について)		4	4	0	10	14
その他		3	50	241	3	294
計	31 30 60	121	234	677	243	1154